



石川県立図書館

選定理由 【選考委員】
陶器浩一・宮崎 浩松村正人

石川県立図書館は、三代目の県立図書館である。老朽化に加え、蔵書数の増加、駐車場不足、開架席数の不足など様々な課題を抱えていたため、金沢大学工学部跡地への移転が決まった。敷地は、大きく二分され、北側に図書館、南側に金沢美術工芸大学が整備されることになっており、周辺の住宅地の関係なども考慮しながら、計画が進められた。本計画は、単に図書館の単一用途だけではなく、文化交流という機能も兼ね備えており、それぞれの機能をどのように融合させるかが、この建築の最大のポイントとなっており、事業者と設計者における濃密なディスカッションのなかから、二つの機能をずらしながら積層するというアイデアが生まれた。エントランスから美しい木ルーバーに誘われながら図書館へと進むと、ぐるっと本に囲まれたグレートホールに包み込まれる。本の置き方を「面陳」にしていることで存在感が増し、更に本棚の上に大きく分かりやすいサインがあることで、目的を探しやすい工夫がなされている。利用者は、緩やかな坂道を散策するように歩きながら、気に入った本を手に取り、坂道の途中で読むことができ、そして、また坂を登っていく。山の頂上まで上がると橋があり、明るい光の差し込む橋の上で時を過ごすこともできる。また、皆で交流しながらわいわいと、一人で隠れて静かに、そして、周辺の豊かな緑を眺めながらゆっくりなど、多様な居場所が散りばめられ、利用者がその日の気分に合わせて場所が選べる仕掛けとなっている。更に図書だけでなく、計画当初から伝統工芸や家具、サイン、色彩などを同時並行でデザインしていくことにより、

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2024年で65回を数えました。



1. 南東外観
2. グレートホール4階
3. エントランスにある屋内広場

まさに、「文化立県・石川の知の殿堂」としての質の高さを感じた。このような質の高い空間を造るうえで、施工者のこだわりや丁寧な

施工、そのための綿密な施工計画は見事で、特に象徴的なグレートホールの天井ドームを施工するうえで、鉄骨精度を極限まで高めて三次元

測量なしで組み上げたのは素晴らしい。また、ファサードデザインは、本をめぐるような三次元曲面で構成されているが、精度よくタイトルが

貼られることにより、重厚で美しい景観を生み出していた。開館後利用人数は四倍、蔵書数は五倍、一人当たりの滞在時間も大幅に伸びたということ、まさに県民に愛される県民のための文化施設となっていた。今後、隣地の金沢美術工芸大学との連携も強化され、様々なイベントも企画されていること。まさに、加賀百万石の伝統文化を現代に継承する美しい図書館であった。

石川県立図書館 概要

- 所在地 石川県金沢市小立野2-43-1
- 建築主 石川県
- 設計者 (株)環境デザイン研究所、(有)金箱構造設計事務所、(株)建築設備設計研究所
- 施工者 清水建設(株)、(株)豊蔵組、(株)表組、寺井建設(株)、(株)双建
- 竣工日 2022年7月5日

- 敷地面積 32,878㎡
- 建築面積 7,291㎡
- 延床面積 22,720㎡

- 階数 地上4階、地下1階、塔屋1階
- 構造 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、一部コンクリート充填鋼構造



詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2024 第65回BCS賞受賞作品》石川県立図書館／エスコンフィールドHOKKAIDO／Otemachi One／OKI本庄工場H1棟／春日台センターセンター／京都東山計画(山荘 京大和・パーク ハイアット 京都)／高槻城公園芸術文化劇場／東京ミッドタウン八重洲／ところざわサクラタウン／那須塩原市図書館 みるる／福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館／MIYASHITA PARK／明治大学創立140周年記念 和泉ラーニングスクエア／屋島山上交流拠点施設「やしまる」／読売テレビ新社屋